

IRに関する基本的な考え方 (たたき台)

平成30年11月
北海道経済部観光局

1. 北海道 I R の基本コンセプト…………… P. 1～9
2. 優先すべき候補地…………… P. 10～14
3. 社会的影響対策の方向性…………… P. 15～18
4. I R に関する基本的な考え方（まとめ） …… P. 19

本資料の位置付け

本資料は、北海道への I R 誘致を前提としたものではなく、I R を誘致する場合に想定される諸課題への対応方向を整理したものです。

道としては、今後、この「たたき台」をもとに、幅広い方々のご意見を伺いながら、更に I R の検討を進めていく考えです。

1. 北海道 I R の基本コンセプト (1) I R 導入の意義及び着眼点

- ・ 国が導入を目指す I R は、これまでにないスケールやクオリティを兼ね備えた多種多様な集客・送客機能を一体的に整備し、国際競争力の高い滞在型観光の実現を目指すもの。
- ・ 本道への I R の導入は、新たな観光市場の開拓のみならず、本道観光の課題である季節格差や地域偏在の是正、さらには雇用の改善や地域経済の底上げなど、大きな効果が期待される。
- ・ 一方で、I R 全体の採算性を確保するための原動力となるカジノについては、ギャンブル依存問題などの社会的影響を最小化することが必要。 I R の導入に当たっては、法に基づくカジノ規制の実効性を高めるとともに、既存のギャンブル等も含めた依存対策を強力に推進し、道民の不安の解消を図ることが不可欠。

《日本型 I R》

M I C E 誘致戦略の
中核機能

日本型 I R が有すべき
中核的な機能

多様なエンターテインメント
やアクティビティの提供
(日本の魅力の
ショーケース)

収益の原動力
となるカジノと
一体的に整備

様々なニーズを
生み出す **宿泊機能**

日本の旅の
ゲートウェイ機能

- ①世界で勝ち抜く M I C E ビジネスの確立
- ②滞在型観光モデルの確立
- ③世界に向けた日本の魅力発信

「観光先進国」としての日本を実現

北海道に導入する場合の着眼点

期待される効果

- インバウンド及び国内市場の開拓・拡大
- 観光消費の拡大
- 観光需要の季節格差・地域偏在の是正
- 良質な雇用の創出 等

効果の
最大化

懸念される影響

- ギャンブル依存問題
- 青少年の健全育成
- 治安の悪化・犯罪の増加 等

影響の
最小化

1. 北海道 I R の基本コンセプト (2) I R の導入効果①

① 国内外からの観光客の受入れ拡大

現 状	課 題	I R 導入で期待される効果
インバウンドは堅調に増加しているが、国内客は横ばい状況	<ul style="list-style-type: none"> 海外・国内における旅行市場の新規開拓・拡大 国内における観光地との競争力強化 等 	<ul style="list-style-type: none"> 日本を代表し、北海道の象徴となる新たな観光資源（キラコンテンツ）の創出により観光需要を飛躍的に拡大

② 観光消費額の拡大

現 状	課 題	I R 導入で期待される効果
消費額単価及び消費額共にインバウンドは堅調に増加する一方、国内客は横ばい状況	<ul style="list-style-type: none"> 観光商品の付加価値向上や旅行日数の増加等による消費の拡大 消費単価の高いインバウンドやビジネス層の誘客促進 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力あるIR施設の利用やIRを拠点とした滞在・周遊型観光の促進により、一人当たりの消費額を拡大 国際会議の誘致等により、消費単価の高いインバウンドやビジネス層の来道促進 等

③ 地域偏在の解消

現 状	課 題	I R 導入で期待される効果
札幌を中心とした道央圏に観光需要が集中し、他地域との格差は拡大傾向	<ul style="list-style-type: none"> 道央圏から他地域への送客(誘導)機能の拡充 道内各地域における魅力ある観光地づくり 等 	<ul style="list-style-type: none"> I Rを周遊観光の拠点として位置づけ、国内外から本道への集客と道内各地への送客を一体的に推進

④ 季節格差の解消

現 状	課 題	I R 導入で期待される効果
国内客は夏季、インバウンド客は冬季に集中し、春季、秋季の観光客は低調	<ul style="list-style-type: none"> 閑散期（春・秋季）の観光需要を底上げ 観光産業の通年安定化 等 	<ul style="list-style-type: none"> 季節変動の少ないMICE施設や四季の魅力を生かしたエンターテインメント施設の整備などにより年間を通じた観光需要を創出

◆ 経済効果（H29需要予測調査による）

- 道内に I R を整備した場合、I R への訪問者数は、年330～860万人、I R 全体の売上高は、年約500～1,560億円と試算。
- 需要予測を前提とした経済波及効果は、年約640～2,000億円、就業誘発人数は、6,800～21,000人と試算。（建設投資を除く）
- 前提条件に不確定要素が多いものの、I R の導入は、道内経済に大きなインパクトをもたらすことが期待される。

◆ 税収効果（H29需要予測調査に基づく試算）

- 需要予測に基づくカジノ収益等に伴う納付金等の額は、年80～234億円と試算。

⇒ 今後、候補地を特定し、I R の機能、施設、規模などのコンセプトを明確にした上で、より精緻な需要予測や建設投資も含めた経済波及効果の試算を実施

1. 北海道 I R の基本コンセプト (2) I R の導入効果②

◆ I R 導入により飛躍的な上昇が期待される観光指標

《北海道観光のくにづくり行動計画に掲げる目標値》

項目	現状	目標 (2020年(H32))
観光入込客数 (実人数)	(H29) 5, 610万人	6, 000万人
うち道内観光客	4, 725万人	4, 880万人
うち道外観光客	606万人	620万人
うち外国人観光客	279万人	500万人
観光消費額		
道内客 1人当たり	(H27) 12,865円	14,000円
道外客 1人当たり	73,132円	76,000円
外国人 1人当たり	178,102円	200,000円
観光総消費額	(H27) 1兆4,298億円	2兆1,544億円
うち道内観光客	6,374億円	6,832億円
うち道外観光客	4,220億円	4,712億円
うち外国人観光客	3,705億円	1兆円
宿泊客延数		
国内観光客	(H29) 2,966万人泊	3,000万人泊
外国人観光客	757万人泊	1,700万人泊
リピーターの割合		
道外客 (5回以上来道)	(H28) 45.3%	50%
外国人 (2回以上来道)	32.0%	34%

202X年

北海道 IR の整備

北海道観光の更なるレベルアップ
我が国が目指す観光先進国の実現に大きく貢献

1. 北海道 I R の基本コンセプト (3) 北海道に相応しい I R の機能・施設

- 日本の他地域にはない北海道の優位性を存分に活かした「アジア・オンリーワンの統合型リゾート」をめざし、その理念に相応しい中核施設群の一体的整備を図る。
- 最大の顧客ターゲットである海外富裕層のニーズに応え、かつ、国内外の多様な客層にとって、何度でも訪れたい魅力ある空間を創造する。
- 国土の22%を占める北海道の広域性に着目し、道内の観光地の結びつきを高め、I R を核としたクオリティの高い周遊観光を促進する。
(=グレーター I R の実現)

《北海道 I R に相応しい機能・施設 (イメージ) 》

世界が注目する「北海道価値」



アジア随一の
ウィンター・リゾート



明瞭な四季と
美しく雄大な自然



独自の歴史・文化



良質で豊富な食

交流集客機能	M I C E 施設	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設やアミューズメント施設等との一体的整備を図り、これまでにないオールインワンの高付加価値型サービスを提供 M・I・C・Eそれぞれの分野に応じた多機能型の施設整備を指向 北海道全体のM I C E 誘致戦略の中核となる施設と位置づけ
	宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> 日本を代表するハイグレードなホテルを中核に、利用者の幅広いニーズに対応できるバラエティに富んだ宿泊施設を整備 北海道らしい自然指向の滞在生活が体験できる施設を併せて設置 M I C E 施設との一体性、連動性を重視 ユニバーサルデザインの導入
ショーケース機能 (魅力増進施設)		<ul style="list-style-type: none"> 北海道をまるごと体感できるクオリティの高い機能・施設を常設 「本物」「本場」を味わうことのできるオプションツアーの提供 先端テクノロジーを活用し、イノベーションの創造に寄与 ナイトエンターテインメントを充実
ゲートウェイ機能 (送客機能施設)		<ul style="list-style-type: none"> I R への訪問客を道内各地の観光地に送り込む機能をハード・ソフトの両面から整備 利便性の高い二次交通システムを整備 I R を拠点とした周遊型旅行をサポートするコンシェルジュ機能をワンストップで提供

1. 北海道 I R の基本コンセプト (4) M I C E 施設 ①

- ・ M I C E 施設（国際会議場、展示場等）については、国が求める「我が国を代表する規模」等の要件を満たすことを前提に、宿泊施設やアミューズメント施設等との一体的整備を図り、これまでにないオールインワンの高付加価値型サービスを提供。
- ・ M・I・C・E それぞれの分野に応じた多機能型の施設整備を指向。
- ・ 札幌市に建設予定の国際会議場をはじめ、道内の M I C E 関連施設との連携・機能分担を基本に、北海道全体の M I C E 誘致戦略の中核となる施設と位置づけ。

《ターゲットに応じた M I C E 機能・施設（イメージ）》

対象分野	ターゲット	求められる機能・施設	
Meeting	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内及びアジア企業が主催する各種会議・研修等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多機能で汎用性の高い会議室 ● 北海道らしいユニークベニュー ● 自動翻訳など最先端の A I、I o T 技術の活用 	多様な付加価値を提供出来るユーザーオリエンテッドな機能・施設を一体的に整備 ・宿泊、バンケット機能 ・オプションツアー ・アミューズメント機能 etc.
Incentive (Travel)	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内及びアジア企業のインセンティブツアー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加者の規模やグレードに応じた宿泊施設、宴会場 	
Convention	<ul style="list-style-type: none"> ● 政府系国際会議 ● 国内外の主要な学会、全国大会等（医学系、自然科学系） 	<ul style="list-style-type: none"> ● ハイグレードのメインホール（客席5,000人規模） ● 多機能で汎用性の高い相当数の会議室 ● 自動翻訳など最先端の A I、I o T 技術の活用 	
Exhibition/Event	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジネス系大規模展示会・見本市 ● スポーツ、音楽系フェスティバル等のイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内有数の展示スペース ● 多様なイベント開催に活用できる屋外施設 	

1. 北海道 I R の基本コンセプト (4) M I C E 施設 ②

《 I R を核とした北海道 M I C E 誘致の展開イメージ》

【基本的視点】 市場拡大が見込まれる分野、地域をターゲットに、戦略的な誘致活動をオール北海道で実施

《 国 内 》

国内企業主催の
インセンティブツアー
会議、研修

政府系国際会議
大規模イベント（学術会議・見本市・展示会・音楽祭 等）

《 海 外 》

アジア企業主催の
インセンティブツアー
研修旅行

これまでにない大規模 M I C E の誘致、顧客ニーズに応じたきめ細かいサービスなど、市場競争力を飛躍的に強化

札幌
(グローバル M I C E 都市)

札幌コンベンションセンター
新 M I C E 施設(2025開業予定)
各種ホール、ホテル 等

I R

《 M I C E 機能》
大規模コンベンションホール
多機能型会議室
ユニークベニュー
国内有数の展示スペース
ハイグレードなホテル

道内各都市

函館アリーナ
旭川大雪アリーナ
とかちプラザ
北見芸術文化ホール
釧路市観光国際交流センター 等

北海道 M I C E 誘致推進協議会

【 現 行 】 北海道及び道内各都市（札幌、旭川、釧路、函館、北見、帯広、登別）の行政・団体に構成
M I C E 誘致に向けた情報収集、プロモーション活動等を一体的に実施

【 I R 導入後 】 I R 立地自治体、I R 事業者を構成員に加え、より強力な誘致活動を展開

1. 北海道 I R の基本コンセプト (5) 宿泊施設

- ・ 海外の V I P・富裕層の高い要求にも十分応えることができる日本を代表するハイグレードなホテルを中核に、滞在目的、人数、年齢、予算、滞在時間など利用者の幅広いニーズに対応できるバラエティに富んだ宿泊施設を整備。
- ・ グランピング、コテージ、氷の宿など、北海道らしい自然指向の滞在生活が体験できる施設を併せて設置。
- ・ M I C E 施設との一体性、連動性を重視した会議場やバンケットホールを設置。
- ・ 国籍、宗教、年齢、障がいの有無を問わず、すべての人にとって快適なユニバーサルデザインを導入。

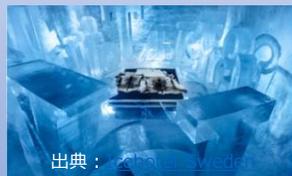
《北海道 I R に設置する宿泊施設 (イメージ) 》

体験型宿泊施設

- ・ グランピング、コテージなど、自然指向の体験型宿泊施設



出典：日本グランピング協会



出典：icehotelwedding

中核宿泊施設

- ・ 世界の V I P・富裕層のニーズに応えるクオリティ、アメニティ、サービスを備えたハイグレードなホテル
- ・ 建造物としての付加価値を高めるデザイン性



出典：Marina Bay Sands



一般宿泊施設

- ・ 滞在目的や予算など利用者の多様なニーズに応える宿泊施設 (ハイグレードとの一体型も想定)



出典：サンエーホテル



出典：niseko central



M I C E 施設との一体性、ユニバーサルデザインを重視

1. 北海道 I R の基本コンセプト (6) ショーケース機能 (魅力増進施設)

- 広大な北海道の多彩な地域資源 (食、自然、文化、冬季スポーツ...) を集約し、北海道をまるごと体感できるクオリティの高い機能・施設を常設。
- I R 訪問者に対し、北海道の魅力を凝縮して発信するとともに、「本物」「本場」を味わうことのできるオプションツアーを提供。
- VR やプロジェクションマッピングなどの映像技術、ICT や IoT などの先端テクノロジーを活用し、イノベーションの創造に寄与。
- 外国人観光客のニーズに応えるナイトエンターテインメントを充実。

《北海道 I R に設置するショーケース機能 (イメージ) 》

食ゾーン

- 道内179市町村の「一押し」「ハイエンド」のグルメ、食材を堪能できるレストラン街
- 優れたプロダクトが揃う、道産品の魅力を凝縮したショッピングモール



歴史・文化ゾーン

- アイヌの生活・文化や縄文時代の追体験施設 (VRによる再現、伝統舞踊ショーetc.)



自然・景観ゾーン

- VR を活用し、知床をはじめ日本の世界自然遺産周遊ツアーを疑似体験
- 雪や流氷など「北海道」の冬を通年で体感できる施設



北海道まるごと 体感ショーケース

スポーツ・エンタメゾーン

- ウィンタースポーツ、ホーストレッキング、自然一体型アクティビティなどの体験施設
- 雪像へのプロジェクションマッピングやVRを活用したアトラクション



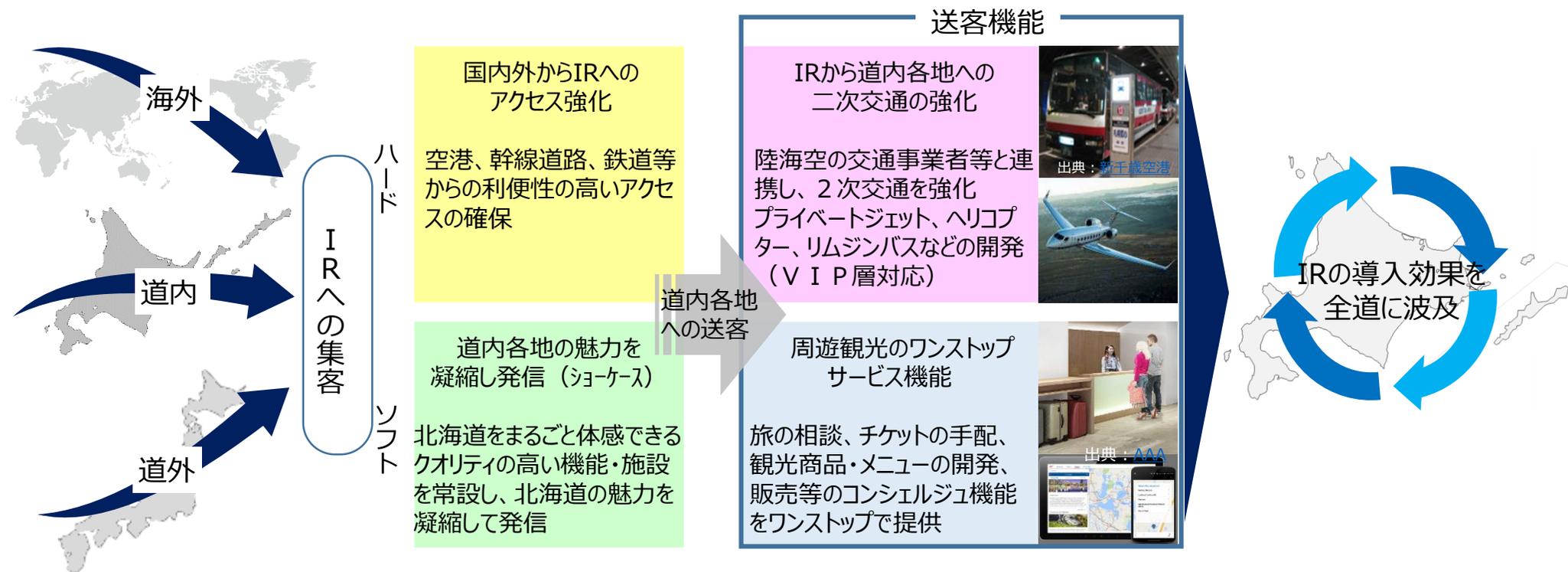
オプションツアーで
道内各地の「本場」
「本物」を実体験！



1. 北海道 I R の基本コンセプト (7) ゲートウェイ機能 (送客機能施設)

- ・ I Rを拠点とした北海道全体への広域的な周遊を促進し、I Rの導入効果を全道に波及。
- ・ 北海道全域を広域の統合型リゾート (グレーター I R) と見立て、I Rへの訪問客を道内各地の観光地に送り込む機能をハード・ソフトの両面から整備。
 - 陸海空の交通事業者等と連携し、富裕層やビジネス客、ファミリー層など多様な客層のニーズに応じた利便性の高い二次交通システムを整備。
 - I Rを拠点とした周遊型旅行商品の開発、旅行案内や手配の全般をサポートするコンシェルジュ機能をワンストップで提供。

《北海道 I Rに設置するゲートウェイ・機能 (イメージ) 》



2. 優先すべき候補地 (1) 検討の着眼点

- 北海道に I R を誘致する場合における優先すべき候補地は、
 - 「日本型 I R に求められる要件」を満たし、
 - 「IR事業者の関心度」が高く、
 - 「北海道に相応しい I R」が実現出来る可能性がより高い区域 であることが求められる。

北海道に導入する場合における優先すべき候補地検討の着眼点

1 日本型 I R に求められる要件

① 施設の定義及び基準

- 設置が義務付けられている国際会議場は、我が国を代表することとなる規模 等

② 区域整備計画の認定基準

- 国内外の主要都市との交通の利便性(国際空港・港湾の立地状況等) が重要な要素
- IRの実現により大きな経済効果が見込まれることが必要 等

③ I R 区域の土地利用

- 民間事業者の公正・公平な選定の観点から、当該土地の利活用についてオープンアクセスが確保されていることが必要 等

2 I R 事業者の関心度・その他

- IR誘致を表明した場合に実施する事業者公募に向けて、当該地域に高い関心を持ち、具体的な事業計画等の検討を進めているIR事業者の存在が必要 等
- I R 誘致に関する地元の反応 等

3 北海道に相応しい I R

- 「アジア・オンリーワンの統合型リゾート」
- 何度も訪れたい魅力ある空間を創造
- IRを核とした質の高い周遊観光の促進

① MICE施設

- オールインワンの高付加価値型サービスを提供
- M・I・C・Eそれぞれの分野に応じた多機能型の施設整備 等

② 宿泊施設

- 日本を代表するハイグレードなホテルを中核に、利用者の幅広いニーズに対応
- 北海道らしい自然志向の滞在生活の体験施設 等

③ ショーケース機能（魅力増進施設）

- 北海道をまるごと体感できるクオリティの高い機能・施設を常設
- 「本物」「本場」を味わうことのできるオプションツアーの提供 等

④ ゲートウェイ機能（送客機能施設）

- I R への訪問客を道内各地の観光地に送り込む機能を整備
- 利便性の高い二次交通システムを整備 等

2. 優先すべき候補地 (2) 日本型 I Rに求められる要件

- ・ 会議場・展示場等の規模、交通の利便性、経済効果の点では、苫小牧市が有利。
- ・ 土地の利活用に係るオープンアクセスの確保については、いずれも所有者との協議が必要であるが、苫小牧市では市が譲渡を受ける方向で検討。

日本型 I Rに求められる要件 (再掲)	釧路市	苫小牧市	留寿都村
① 施設の定義及び基準 <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置が義務付けられている国際会議場は、我が国を代表することとなる規模 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ MICE施設については、M (Meeting) と I (Incentive) に重点を置いたコンパクトなものを想定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3万～5万㎡の展示場、5,000人規模の国際会議場を整備可能との事業者提案あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存のMICE機能は2,300人、約3,000㎡。 ・ 最大で約2万5千㎡の拡張を想定。
② 区域整備計画の認定基準 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外の主要都市との交通の利便性 (国際空港・港湾の立地状況等) が重要な要素 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路空港から車で約60分 ・ シャトルバスや乗り合いタクシー等、釧路空港からの二次交通整備が新たに必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新千歳空港から車で約15分。 ・ 新たな道路の敷設や公共交通機関の整備を含めて利便性の向上を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新千歳空港から車で約90分。 ・ 地元事業者が滑走路2,000m級のプライベート空港の建設を計画。
<ul style="list-style-type: none"> ・ IRの実現により大きな経済効果が見込まれることが必要 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道による需要予測調査等 IR売上高 504億円 税収効果 80億円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道による需要予測調査等 IR売上高 1,562億円 税収効果 234億円 ・ 開業時投資額 (RFC) 2,800～3,800億円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道による需要予測調査等 IR売上高 840億円 税収効果 129億円 ・ 開業時投資額(RFC) 1,700億円
③ I R区域の土地利用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間事業者の公正・公平な選定の観点から、当該土地の利活用についてオープンアクセスが確保されていることが必要 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所有者：一般財団法人・国 ・ 財団法人所有の土地については、所有に係る法的位置づけの整理が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所有者：民間企業(1者) ・ 民間企業所有の土地を市が譲渡を受ける方向で検討を進めているところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所有者：民間企業(1者) ・ 所有者の民間企業と協議を進めていく予定。

2. 優先すべき候補地 (3) I R事業者の関心度・その他

- ・ 苫小牧市は関心を示す I R 事業者が多く、具体的な提案に至っている事業者も複数あり。
- ・ 釧路市・留寿都村では明確な反対運動等はない。
- ・ 苫小牧市はセミナーや出前講座を複数回開催し、丁寧に住民説明を行っている。

項目	釧路市	苫小牧市	留寿都村
IR事業者の関心度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道への事業提案数 (RFC) — 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道への事業提案数 (RFC) 8社 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道への事業提案数 (RFC) 1社
	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで約10社と接触し、約5社は現地視察に来訪。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市でも投資意向調査を実施し、15社から事業提案あり。 ・ そのうち6社から具体的な事業提案を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで6社程度の接触あり。
地元の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反対運動は起きていないが、市政懇談会にてギャンブル依存症を心配する声も上がった。 ・ 生活支援に関する先進的な取組を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ セミナーや出前講座などを開催し、延べ900名の市民が参加。 ・ 市民団体から約11,000筆の誘致反対の署名提出あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村政懇談会にてIR誘致への理解を深めている。 ・ 直接的な反対の声はない。

2. 優先すべき候補地 (4) 北海道に相応しい I R の機能・施設

- 3地域共に、「北海道に相応しい I R の機能・施設」に配慮したIR施設を整備できる可能性あり

北海道に相応しい I R の機能・施設		釧路市	苫小牧市	留寿都村
① MICE施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊・アミューズメント施設との一体的整備 ● 多機能型の施設整備 ● 北海道全体のMICE誘致戦略の中核となる施設 	<ul style="list-style-type: none"> ● M (Meeting) と I (Incentive) に重点を置いたコンパクトなものを想定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際空港に隣接した立地を活かし、国際会議誘致を推進 ● 小から大規模会議等にまで柔軟に対応可能 ● 3万～5万㎡の展示場、5,000人規模の国際会議場を整備可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存のMICE機能は2,300人、約3,000㎡。最大で約2万5千㎡の拡張を想定 ● 各種学会や会議等の開催実績あり
② 宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本を代表するハイグレードホテル ● 利用者の幅広いニーズに対応できる宿泊施設 ● 北海道らしい自然志向の滞在施設 	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期滞在の拠点となり得る施設 ● 200室程度のハイグレードホテルを想定 ● 主に富裕層をターゲットとした自然と調和した客室 	<ul style="list-style-type: none"> ● VIPや長期滞在者、一般層など多様なニーズに対応 ● 1,000～2,000室想定 ● 自然体験とセットとなったグランピング施設 	<ul style="list-style-type: none"> ● リゾート全体で1,300室を想定 ● 建築及び内装は、縄文文化やアイヌ文化からのインスピレーションも考慮
③ ショーケース機能 (魅力増進施設)	<ul style="list-style-type: none"> ● 北海道をまるごと体感できる質の高い機能・施設 ● オプションツアーの提供 ● VR等の先端技術を活用 ● ナイトエンターテインメントの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● エンターテインメント要素を持ったアイヌ文化の紹介 ● 阿寒湖温泉周辺などの自然に触れる体験観光の機会を提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● ものづくり企業が集積する地域特性を活かした「イノベーションリゾート」 ● 自然体験の入門コンテンツを提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の特産品のショッピング施設 ● アイヌ文化をテーマとしたプロジェクションマッピング
④ ゲートウェイ機能 (送客機能施設)	<ul style="list-style-type: none"> ● 道内各地に観光客を送り込む機能をハード・ソフト両面から整備 ● 多様な客層に応じた二次交通システム ● コンシェルジュ機能の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ひがし北海道」全体の観光資源との連携 ● 二次交通のアクセスルート整備 ● LCCの乗客の追跡調査を通じ、二次交通のあり方検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新千歳空港を活用し、ダイレクトインバウンドの道内・道外への送客を推進 ● 訪問客のデータからAIで最適の旅行プランを提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元民間企業が計画しているプライベート空港と、道内空港との連携 ● 観光情報発信施設

2. 優先すべき候補地 (5) 優先すべき候補地のまとめ

日本型 I Rに求められる要件

- ① 施設の定義及び基準
- ② 区域整備計画の認定基準
- ③ I R区域の土地利用

- ① 我が国を代表する規模となる国際会議場の整備
- ② 交通の利便性が高く、3地域の中で最大の投資
- ③ 土地を市が譲渡を受ける方向で検討
(オープンアクセス確保)
などが期待されることから、
苫小牧市は最も要件に適している。

I R事業者の関心度・その他

- ① I R事業者の関心度
- ② I R誘致に関する地元の反応

- ① 道のR F Cでも最多の8社の提案があり、また市が実施した投資意向調査でも15社から提案があるなど、**苫小牧市は事業者の関心度が最も高い。**
- ② 苫小牧市では複数回にわたり様々な形で住民説明を実施。留寿都村では、反対の声はほとんどない。

北海道に相応しい I Rの機能・施設

- ① MICE施設
- ② 宿泊施設
- ③ ショーケース機能 (魅力増進施設)
- ④ ゲートウェイ機能 (送客機能施設)

3地域共に「北海道に相応しい I Rの機能・施設 (①～④)」に配慮した I R施設を整備できる可能性あり

地域間の連携

候補地が一本化された場合には、3地域ともに候補地との連携を図る意向あり

【主な構成員意見】

- 国内他地域との競争力という点では、苫小牧が有利ではないか。
- IRの効果を道内全域に波及させることを考えると、苫小牧が相応しいのではないかと。
- 事業用地のオープンアクセスは公平性を担保する上で重要であり、現時点で苫小牧市の準備が進んでいる。
- 地震からの復興にIRがどのように寄与できるかという視点も加えるべき。
- 北海道への I Rの誘致、効果の波及ということも戦略的に進める上でも、3地域間の広域観光の連携を認識して進める必要がある。

I Rを誘致する場合、
苫小牧市を優先候補地とすることが妥当

3. 社会的影響対策の方向性 (1) 対策の全体像

国の規制の実効性を高める、北海道の実情や地域性に合った施策を推進

ギャンブル等依存症全般の対策

- 既存のギャンブル等を含めた総合的かつ体系的な依存症対策の推進
- 科学的知見に基づいた実効性の高い取組の推進
- 精神保健福祉や医療、生活支援等分野横断的な連携体制の構築

カジノに関する依存防止対策

- ①ゲーミングに触れる機会の限定
②誘客時の規制
③厳格な入場規制
④カジノ施設内の規制
⑤相談・治療につなげる取組
重層的かつ多段階的な取組の実施
- 公共政策としての取組と、I R事業者の責任において取り組むべき対策の適切な組合せの検討

青少年健全育成

- 未成年のカジノ施設入場を規制
- ギャンブリングや依存症に関する正しい知識の普及・啓発

マネー・ローンダリング対策等

- 犯罪収益移転防止法の枠組みに加え、一定額以上の現金取引の報告を義務づけ
- 反社会的勢力の入場禁止をカジノ事業者及び本人に義務づけ

3. 社会的影響対応の方向性 (3) カジノに関する依存防止対策の方向性

◆ 段階的な取組のイメージ

	国の取組	北海道独自の取組に関する検討例（事業者＋行政）
①機会の限定	<ul style="list-style-type: none"> ・ I R 区域数の限定 ・ カジノ面積の規制等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ I R 区域内における動線上の配慮（宿泊施設からカジノエリアを通らずに魅力増進施設に移動 等）
②誘客時の規制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広告・勧誘規制 ・ コンプ規制 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ギャンブル依存症の影響、相談方法等に関する周知・PR
③厳格な入場規制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入場回数の制限 ・ 入場料の賦課 ・ マイナンバー等による管理 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生体認証等による厳格な入場管理 ○ 利用者の行動履歴の把握 ○ 道民の入場等に対する制限措置
④カジノ施設内の規制	<ul style="list-style-type: none"> ・ カジノ行為に関する規制 ・ 貸付規制 ・ ATM設置規制 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特定資金貸付業務の厳格な運用
⑤相談・治療につなげる取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談窓口の設置 ・ 本人・家族申告による利用制限 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業者のノウハウ等に基づく専門スタッフの教育・育成 ○ 専門スタッフによるカジノ施設内での見回り・声掛け（問題保有者に対するプッシュ型支援） ○ I R 施設内に相談センターを設置 ○ 実効性のある依存防止規程の策定及び遵守

事業者と行政の協定等による実効性の確保

3. 社会的影響への対応の方向性 (4) 青少年の健全育成、マナー・ロウンダリング対策等

青少年の健全育成	IR整備法	ギャンブル等依存症対策基本法	その他
マナー・ロウンダリング対策等	<ul style="list-style-type: none"> 未成年者へのカジノ施設の入場を規制 未成年者への広告・勧誘の制限 広告・勧誘時に未成年者の入場規制の表示もしくは説明を義務付け 	<ul style="list-style-type: none"> 国及び地方公共団体にギャンブル等依存症問題に関する知識の普及のために必要な施策（学校教育等）を講じることを義務付け 	<ul style="list-style-type: none"> 「高等学校学習指導要領」の解説に、アルコール等の依存症に加え、ギャンブル等も触れるように追加（平成34年度の高等学校入学生から適用予定）
	<p>環境面の対策 (反社会的勢力の排除等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 免許制度 ② 背面調査による事業者・従業員からの反社会的勢力の排除、入場者からの反社会的勢力の排除、施設の構造・設備基準 	
	<p>取引行為に着目した対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 取引時確認等、疑わしい取引の届出 ② 公正なゲーミングの実施、一定額以上の現金取引の届出【法第109条①】 ③ 顧客の指図を受けて行う送金先を本人の口座に限定 	
	<p>顧客の行動に着目した対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① チップの持ち出し規制、施設内の警戒・監視【法第175条①②】 ② チップの譲渡規制【法第104条①②】 	
<p>事業者の規制遵守のための対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 内部管理体制の整備 ② 自己評価と監査の結果をカジノ管理委員会に報告 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者に犯罪収益移転防止規程の作成の義務付け カジノ管理委員会による審査 	

(出典) 第5回 特定複合観光施設区域整備推進会議 資料5「マナー・ロウンダリング対策等について」をもとに北海道で一部加工

赤字：日本独自の対策

4. I Rに関する基本的な考え方（まとめ）

効果の

最大化

- 日本の他地域にはない北海道の優位性を存分に活かした「アジア・オンリーワンの統合型リゾート」を形成し、国内外からの観光客の飛躍的な増加を実現する
- 富裕層を主要なターゲットに位置付け、年間を通じた賑わいを創出することにより、季節・地域偏在といった本道観光の課題に対応する
- 人材育成、多様な人材の活用、移住・U I ターン政策と連動し、I Rにより創出される新たな雇用を、本道の地域経済の発展につなげる
- I Rを拠点とした広域周遊やI R施設における道産品の活用を促進し、地域への波及効果を高める

影響の

最小化

- ギャンブル等全般を対象に、科学的な知見に基づく体系的な依存症対策を進め、ギャンブル問題を抱える方々を一人でも少なくする
- カジノについては、“責任あるゲーミング”を徹底し、新たなリスクを最小化する
- I R設置による周辺地域の急激な人口増などに伴う社会的要請（医療・福祉・教育など）に適切に対応する
- I R設置に伴う必要なインフラ整備や社会環境の変化に対応するための費用負担については、事業者や地元自治体と十分に協議する。

ギャンブル等依存症などの社会的影響を最小化することにより、
I Rの導入が北海道観光の発展に貢献する可能性